

環境ラベルに関するアンケート調査結果 概要

平成19年9月
環 境 省

環境ラベル等に関する企業の調達担当者意識アンケート調査結果 概要

(1) 回答者属性

全国の企業の調達担当者（以下、購入者という）を対象に環境ラベル等に関するアンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査結果

問1. 省エネラベルの認知度（SA）

製品の省エネルギー性能などに関する情報を統一の方法で表示する「省エネラベル」を知っているかとの問いに、「知っている」との回答が53.6%、「知らない」との回答が44.4%と若干「知っている」が上回っているが、認知度はほぼ二分している。「その他」の意見として、「見たことはあるが具体的な内容や表示の読み方が判らない」等の回答があった。

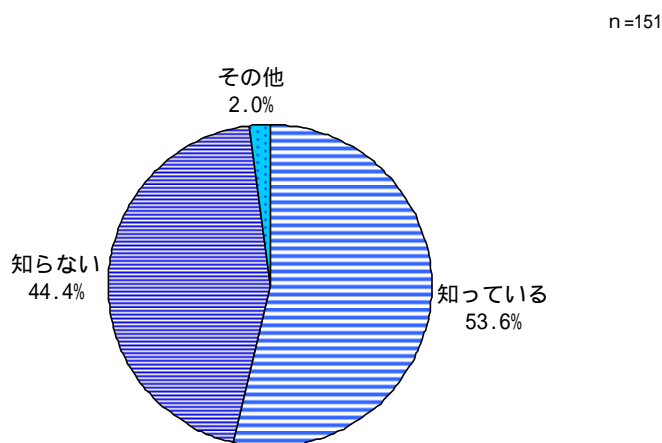


図1 省エネラベルの認知度

問2. 製品を購入する又は購入を検討する際の省エネラベルの有効性（SA）

省エネラベルは、製品を購入する又は購入を検討する際に有効だと思うか、との問いには「有効である」との回答が90.7%、「有効ではない」との回答はわずか7.3%であり、ほとんどの購入者が省エネラベルを有効であると回答している。

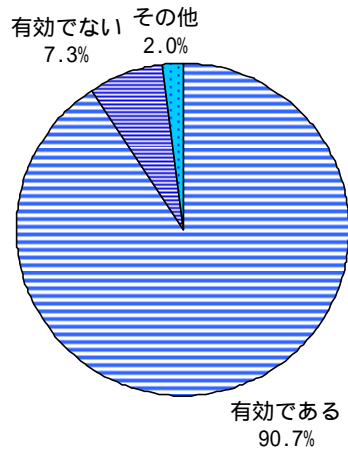


図 2 製品購入時又は購入検討時の省エネラベルの有効性

問 3 . 省エネラベルが有効であるとする理由 (M A)

問 2 で省エネラベルが「有効である」とする理由として、「省エネ基準達成率や消費効率などが具体的な数値で示されているから」が 76.2%、「他社製品との比較が可能だから」が 52.3%、「ラベルの意味が一目でわかるから」が 28.5%、「グリーンやオレンジといったマーク表示がわかりやすいから」が 22.5%、「客観性があるから」が 15.9%と続いている。具体的な数値で示されていることや他社製品との比較可能性については、過半数以上が支持する回答となっている。

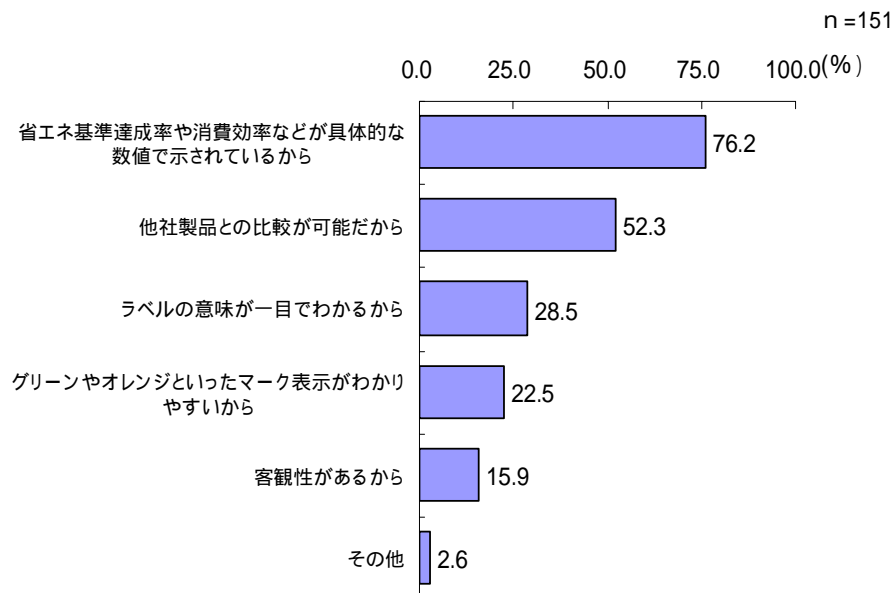


図 3 省エネラベルが有効であるとする理由

問4. 第三者による環境ラベルと企業による自主的な環境ラベルの認知度 (SA)

エコマークのように第三者機関によって認定を受けた製品にのみ表示することができる環境ラベルと、企業が独自に作成し、自主的に製品等に表示する環境ラベルがあることを知っているか、との問いに、58.2%が「知っている」とし、41.8%が「知らない」と回答している。

n=151

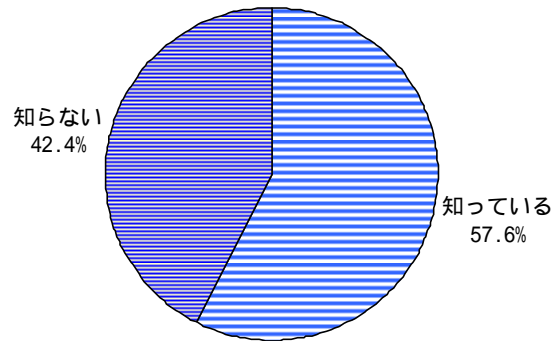


図4 第三者による環境ラベルと企業による自主的な環境ラベルの認知度

問5. 企業による自主的な環境ラベルに対する考え (MA)

企業による自主的な環境ラベルについてどのように考えるか、との問いに、「企業努力を感じる積極的な取組だと思う」が60.3%、「マークの有無で環境に配慮している製品かどうか分かる」が53.6%、「製品の購入検討に役立つ」が34.4%、「様々なマークがあってよくわからない」が33.1%、「他社製品と比較することができない」が23.1%、「客観性がない」が21.2%、「マークが何を示しているのかが具体的にわからない」が19.9%、「情報はたくさんある方が良い」が18.5%、「信頼できない」が9.3%、「環境ラベルの有無で購入するかどうかを決めない」が5.3%、と続いている。過半数以上が「企業努力を感じる積極的な取組」や「製品の購入検討に役立つ」とポジティブな評価する一方で、2~3割は「様々なマークがあってよくわからない」、「他社製品と比較することができない」とネガティブな評価をしている。

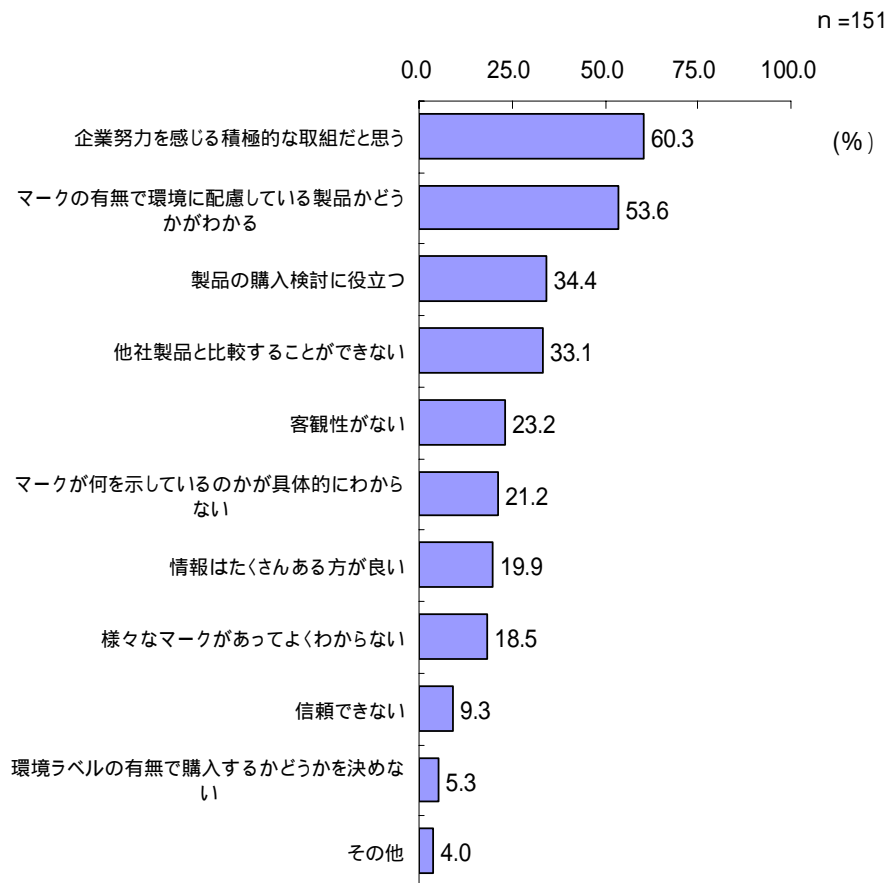


図 5 企業による自主的な環境ラベルに対する考え

問 6 . 企業による自主的な環境ラベルを利用して製品等を購入した経験 (S A)

これまでに企業による自主的な環境ラベルを参考にして製品やサービスを購入したことがあるか、との問いに「よく参考にして購入している」が 16.6%、「たまに参考にして購入している」53.0%、「ほとんど参考にしたことがない」が 24.5%、「参考にしたことがない」が 5.3%と回答しており、「よく参考にして購入している」と「たまに参考にして購入している」を合わせると、約 7 割近い (69.6%) 購入者が企業による自主的な環境ラベルを参考に行っていると回答している。

n=151

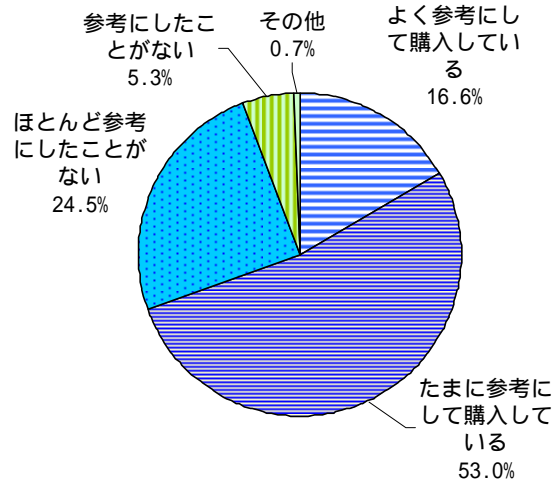


図 6 企業による自主的な環境ラベルを利用して製品等を購入した経験

問 7 . 企業による自主的な環境ラベルを参考にしたことがない理由 (M A)

問 6 で「ほとんど参考にしたことがない」、「参考にしたことがない」と答えた理由として、「どのように環境に配慮されているのかがわからなかったから」が 51.1%、「他社製品と比較することができないから」が 33.3%、「環境ラベルを見たことがなかったから」が 31.1%、「環境ラベルの有無で購入するかどうかを決めないから」が 31.1%、「企業による自主的な環境ラベルは信頼できないから」が 15.6%、「環境に配慮された製品であることを知らなかったから」が 8.9%、「その他」が 11.1%と続いている。「その他」の理由として、「マークが多すぎて、何を意味しているのかが判りにくい」や「クリアした基準の内容による」等が挙げられている。

n =45

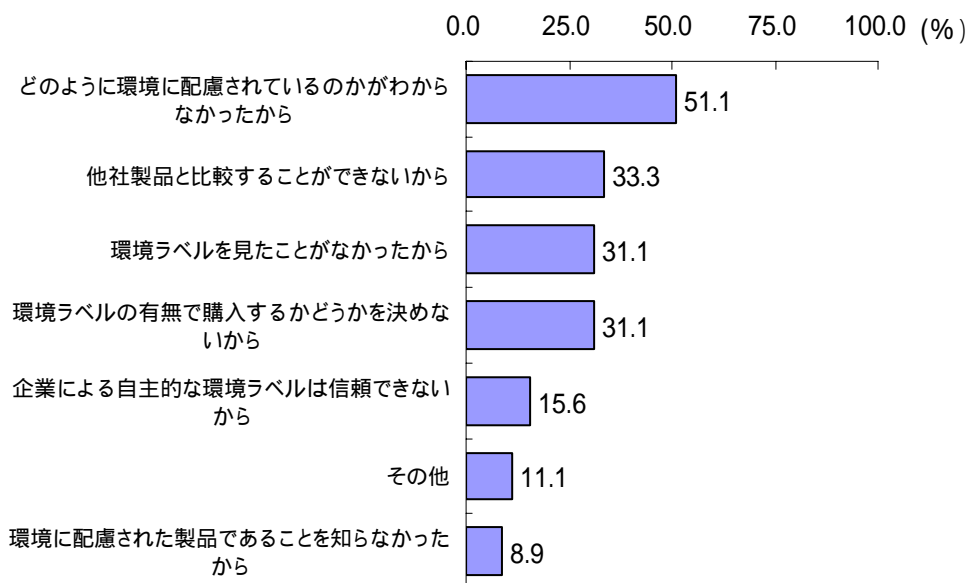


図 7 企業による自主的な環境ラベルを参考にしたことがない理由

問 8 . 企業による自主的な環境ラベルに期待すること・改善点 (S A)

企業による自主的な環境ラベルに期待すること又は改善点についてどのように考えるかとの問いに、「他社製品との比較ができるような統一のマークや基準がほしい」が 29.8%と最も多く、次いで、「科学的に裏付けのある根拠を示してほしい」が 22.5%、「わかりやすく説明してほしい」が 18.5%、「わかりやすい場所に表示してほしい」が 12.6%、「詳しく説明してほしい」が 7.9%、「対象製品を増やしてほしい」が 4.6%、「大きく表示してほしい」が 2.0%と続いている。マークの表示方法以上に、比較可能なマーク・基準、裏付けのある根拠に対する要望が高くなっている。

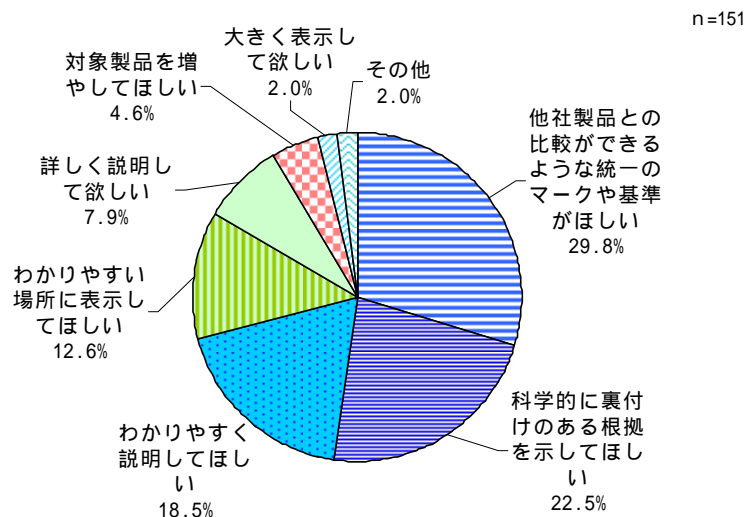


図 8 企業による自主的な環境ラベルに期待すること・改善点

問 9 . グリーン購入法適合マークの有効性 (S A)

グリーン購入法に適合していることを示すマークやロゴなどが有効に機能していると思うか、との問いに、65.6%が「有効に機能している」とし、28.5%が「有効に機能していない」と回答している。環境に配慮された物品を選択する際の目印としてマークの有効性が支持されているものと考えられる。

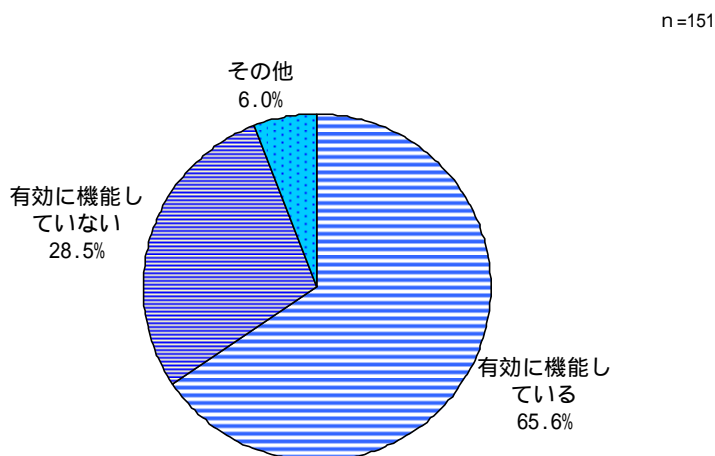


図 9 グリーン購入法適合マークの有効性

問10. 統一のグリーン購入法適合マークの必要性(SA)

グリーン購入法に適合していることを示すマークやログとして、統一されたものが必要かとの問いに、「必要である」が88.1%、「必要ではない」が11.9%と回答している。現状では、統一されたものはなく、各社の創意工夫によって表示されているが、ほとんどの購入者が統一のマークを望んでいることがわかる。

n=151

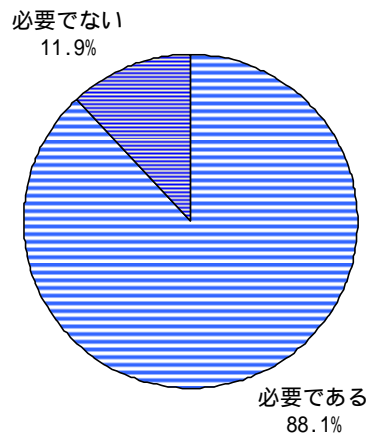


図10 統一のグリーン購入法適合マークの必要性